

「天国の7つのたとえ4」

どのような人でも、これだけは手放せない、自分にとって大事な物だと思っているものがある。それは物だけではなく、経験に基づいた考え方や、生き方かもしれない。しかし「もっと価値があるもの」を知ったなら、今までのものを全部投げ打ってでも、手に入れても惜しくないと思うと主イエスは語られた。それは、「世界の基が据えられたときから隠されていること」である。それは何なのだろうか。主イエスが語られたこの時点では、起きていなかったが、やがて主イエス自身の十字架の死と復活によって始まった魂の救いである。そしてイエス・キリストを信じ受け取った者に与えられる永遠のいのちである。

使徒のパウロはこの救いを知ったとき、自分が今まで依り頼み、縛られてもいた「律法やおきて」から解放され、永遠のいのちの君である主イエス・キリストと結び合わされたのである。名誉も地位も財産も家族も失うことになったが、パウロにとって、いのちの君主イエス・キリストには、何ものも、換えられないものになってしまったのである。

[聖書の学び]

Ⅰ、畑で見つけた宝 (マタイ 13:44)

1、畑に隠された宝のような、天の御国

①忘れ去られ、値打ちが発揮できない。

②隠された宝のような、天の御国・・・見つけた人には大きな恵み、喜びを与える。

③急いで、今に手に入れなければ、手に入らないかもしれない。…そのためにしたことは？

2、「宝を見つけた人」について

①畑に隠された宝を偶然見つけた人とは。

・神への乾きもなく、別に救いを求めていたのでもない人。信仰には無関心だった人。

②宝を偶然見つけるとは… クリスチャンの良い証しや誘い、教会の伝道チラシなどと
出会う。

・苦難、困難により、信仰に目覚めた時。…「そうだ！あの教会に行ってみよう」と思う。

・気がつくと、神とその救いを求めるようになり、信じて救われること。

③チャンスをつかんで得るなら、天の御国は、その人の莫大な財産になる。

中近東は昔から超大国が隆盛し、その国の間では戦いの連続であった。戦場となった付近は殺戮と財産の強奪がなされた。兵士は、次の戦いに行く前に奪い取った財宝を洞窟や畑に穴を掘り、自分だけが分かる目印を付けた。隠した兵士が戦いで死んだ場合は、その宝は土の中に残ったまま、忘れ去られてしまう。

Ⅱ、高価な真珠を探し求めた商人 (マタイ 13:45、46)

1、高価な真珠のような天の御国

- ①世界に一つしかない宝。
- ②商人はそれをずっと探していた。
- ③それを売れば、その値は何倍にもなり、持ち物を売った以上の高額な収入にある。

当時は養殖などない。海に潜って口を開けている貝の中にある真珠を見つけ採るしかない。
大粒で傷のない素晴らしい真珠は非常に高価で、早い者勝ちである。

2、「高価な真珠を手に入れた商人」について

- ①どこかに素晴らしい真珠はないかと探していた人である。
 - ・どこかに真理はないか、救われるためにはどうすればよいのかと、神と救いを真剣に求めていた人。
- ②何かのきっかけで、教会に来て、本当の救いはこれだ！と信じ救われた人。
- ③その人が頂いた永遠のいのちは、ものすごい価値がある。

Ⅲ、魚でいっぱい在地引き網 (マタイ 13:47～51)

1、あらゆる種類の魚を集める網

- ・全世界の全ての人々が神様の前に出る。

2、この世の終わりまで、そのまま。

- ・現在の有様は、神様からの宝を頂いて人生を送っている者も、見せかけだけそのように見えてはいるが、その宝を得ていない者も混在している。

3、この世の終わりに、天使たちが人々をより分ける。

* ディスカッション (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. あなたは、ふとしたことから、神とその救いを見いだした人でしょうか？

それとも、神とその救いを求めて、見いだした人でしょうか？

知っている人でそのような方はいるでしょうか？

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。